

外務省での研修

平成28年6月
外交実務研修員 堤 康之
(佐賀県より派遣)

1 はじめに

私は、平成27年4月に佐賀県から外務省に派遣され、アジア大洋州局大洋州課で勤務しています。一口に外交実務研修とは言え、配属される課によって経験できることは実に様々なようですが、その一例として私の経験がご参考になればと思い、2つの主な業務について少しだけご紹介します。

2 クック、ニウエ

皆さんは「クック」「ニウエ」と聞いて、それが何の名前かすぐにお分かりでしょうか。もし分からなければ、「クック」とGoogleで検索してみてください。一番上には「クックパッド」が表示されますが、もう少し下の方に、クックを紹介する外務省公式HPのページがヒットするはずです。同じようにニウエについても紹介しています。

そうです、この二つは国の名前であり、私が大洋州課で担当させてもらっている愛すべき大洋州の国の名前なのです。

外務省では、諸外国との二国間関係を担当する課があり、大洋州課は、大洋州の国（オーストラリアや、ニュージーランド、フィジー、パラオ等16カ国）を担当しています。大きい国になると、一つの国を一つの課や複数の課で担当しているところもあるので、大洋州課は担当国数が比較的多い方になるようです。私のような自治体からの研修員でも担当国を持たせてもらうことができます。

担当する国によっては荷が重いこともあるかもしれませんが、外務省で国を担当できるというのは、地方自治体では味わえない外交実務研修の醍醐味だと



クック政府観光局HP

思います。担当者は、基本的にはその国のスペシャリストになることが求められ、例えば「ニウエのことはとりあえずこいつに聞け」という立場になりますので、好奇心旺盛な方にとっては、発見が多くて楽しめるのではないかと思います。



ニウエの海

また、海外に設置している日本大使館や、駐日大使館を置いている国であれば大使館を通じて外国政府とやり取りをしたり、外国政府要人を日本に招待し会談や社交の場をアレンジしたり、と外交の一端を垣間見られる機会が数多くあるのも、国を担当する課の特徴かと思います。要人対応は、ハイレベルであるほど準備が大変ですが、その分思い出深いドラマが生まれたり、終わってみればいい経験だったと思えることもあります。

3 人的交流

国担当とは別に、大洋州の国々との人的交流も担当しています。主には、「対日理解促進交流プログラム」という短期招へい事業で、昨年度はこの事業で大洋州各国から300名弱の若者を受け入れました。

大洋州の国は親日的であることもあり、参加者は日本のことが大好きで、また初めての海外渡航という方も多く、約10日間と短い滞在ながらいろいろな刺激的な体験を経ることになり、帰国する頃には、訪日する前よりも日本のことを好きになった、といった声がたくさん寄せられます。



和歌山城での記念撮影



着付け・日本舞踊体験

また、大洋州島嶼国は、気候変動による海面上昇の影響を受けやすいことや、サイクロンや干ばつ等の災害も頻繁に発生する等、防災対策に強い関心があり

ます。それで、防災対策に関する講義や視察をプログラムに組み込むようにしたところ、そのグループの帰国報告会で、甚大なサイクロン被害を受けたバヌアツからの参加者が「日本の震災からの復興に勇気づけられた」と涙ながらに語ってくれた、ということもありました。

(対日理解促進プログラム facebook ページ)

<https://www.facebook.com/youthexchange.mofa>

4 最後に

外務省での研修はまだ4分の1が終わったばかりで、外交実務研修がどうだと言える段階ではありません。ただ、少なくともこの1年、とても刺激的で、基本的に楽しい仕事をすることができましたので、これからの約3年も楽しみにしています。

県庁生活30～35年のうちの4年間と思えば、一カ所の異動とほぼ同じくらいですが、ここでは、県庁では経験できないようなことがたくさんあるように思います。この体験記をご覧いただいている方が、もし外交実務研修にご興味がある、あるいは人事課に言われたけどどうしようか迷っている、といった方であれば、前向きに検討してみることをお勧めします。